

舞い下りた天使

中村 実千代 栃木県小山市 六十六歳

仕事ばかりに目が行っていたころには、花には興味が無かった。ところが、退職して張り合いの無い生活が始まると、身の回りの殺伐とした風景に優しい色を求めたくなった。

たまたま通りすがりに目に留まった花園で、鮮やかな花たちと出会った。その折、「ペチュニア」という花の名さえ知らなくて恥ずかしい想いをした。その花園の女主人が、花の名や育て方、注意点を丁寧に教えてくれたので、二株の花苗を買い求め育てることにした。「花はやさしくされると、必ずきれいに咲こうとするものです」という女主人の声が心の中に残った。

毎朝、水をやり花柄を摘み取り、しゃがみこんで話しかけた。そんなある日、桃色のペチュニアの花が一気に花開いた。嬉しくて夫に声を掛けると「よかったな」と喜び、わざわざ見に来てくれた。それから、あの花園に行っては花苗を買い求め、楽しみながら花を育てた。

六年が経った今では、狭い玄関先に様々な花が咲いている。マリーゴールド、アザミ、トルコ桔梗、日日草、バーベナ、クロッカス。花の名前もたくさん覚えた。なにより、子の居ない私たち夫婦に、まるで小さな天使が舞い下りて、その子に豊かな愛情を捧げているような、充実した日々になった。

近所の人々は、通りすがりに我が家の花を愛でて行く。私は声を掛けられると、「うちの子、可愛いでしょう」と大いに自慢している。